「学校における働き方改革　取組の重点項目と主な取組内容」（アクションシート・学校版）　記入例はこちら

学校名　山梨県立富士見支援学校

（※1）【主な取組内容の詳細】を確認
取り組みの詳細（※1）から確認

（※2）【取組の重点項目「独自①・独自②」】を記入
年度始めに
①取組主体ごとの独自の取組を記入する（任意）
②各重点項目の取組で、独自の取組が3つ以上ある場合は、「6. 各取組主体のその他の独自取組」の「独自①」～「独自⑩」に内容を記入し、年度末に評価する

（※3）【年度ごとの取組項目】を決定
年度始めに
「○」：本年度取り組む項目
「－」：本年度は取り組まない項目
※取り組まない理由を【年度ごとの達成状況】の【分析】の欄に記入

（※4）【年度ごとの達成状況】を記入
年度末に
《評価の欄》 A：達成できた　B：ある程度達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった
※「年度ごとの取組項目」が「－」の場合は「－」を選択
《分析の欄》 評価が「C」または「D」の場合、その要因等、分析結果を記入
※「取り組みの重点項目１」の④については、評価にかかわらず「きずなの日」の実施回数を記入

取組の重点項目１ 【勤務時間管理の徹底及び適切な勤務時間の設定】

取り組みの詳細（※1）

	年度ごとの取組項目（※3）				年度ごとの達成状況（※4）							
					令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	R3	R4	R5	R6	評価	分析	評価	分析	評価	分析	評価	分析
①勤務時間管理の徹底	○	○	○		B	時間外在校時間の平均値を減らすことができたが、多忙な時期に一部の職員の勤務時間が超過してしまうことがあった。	B	時間外在校等時間の平均値は減っている。業務量の差から、特定の職員が残業を余儀なくされるケースがある。				
②効果的な勤務時間の割り振り	－	－	－		－	時差出勤等の勤務時間の割り振りの実施予定はない	－	時差出勤等の勤務時間の割り振りの実施予定はない				
③学校閉庁日の設定	○	○	○		A	設定できた	A	設定できた				
④「きずなの日」の着実な推進	○	○	○		B	実施回数 24 回 月2回の設定はできたが、急な会議や打合せなど、対応が必要な場合があった。	A	実施回数 24 回 月2回の設定を着実に実施できた。		実施回数 回		実施回数 回
⑤定時退校日及び退校時間の設定	○	○	○		B	定時退校日は概ね設定することができたが、どうしても残らざるを得ない職員が出てしまうことがあった。	A	「きずなの日」と抱き合わせて年間24回の設定をした。意識的に退庁できる日が多くなった。				
⑥1年単位の変形労働時間制についての検討	－	－	－		－	制度運用の見通しが立っていないために、今年度は検討を見送った。	－	行わなかった。				
独自①（※2） 保護者対応や関係機関との会議等における時間外勤務の適切な振り替えの実施	○	○	○		B	振り替えの仕組みを作ることはでき、効果はあったが、振り替えをしきれなかった職員もいた。	B	振り替えの仕組みが定着し、長期休業中に振り替えをする職員が多かった。				
独自②（※2） 学校閉庁日の日数を増やす		○	－				A	学校閉庁日を増やした。週休日や祝日ともつなげてまとまった休暇をとることができた。				

取組の重点項目２ 【勤務時間・健康管理を意識した働き方の徹底】

取り組みの詳細（※1）

	年度ごとの取組項目				年度ごとの達成状況							
					令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	R3	R4	R5	R6	評価	分析	評価	分析	評価	分析	評価	分析
①管理職のマネジメント力の向上・リーダーシップの発揮	○	○	○		B	マネジメント力、リーダーシップの発揮に努めたが、更なる工夫・改善が必要である。	B	マネジメント力、リーダーシップの発揮に努めたが、更なる工夫・改善が必要である。				
②一人ひとりの教職員による働き方の見直し・意識改革	○	○	○		B	職員の意識改革は進んだが、更なる改善が必要である。	B	職員の意識改革は進んだが、業務量の差が大きく更なる改善が必要である。				
③教職員の健康サポート・教職員の健康管理の推進	○	○	○		B	健康管理・メンタルヘルスの推進に取り組んでいるが、更なる改善が必要である。	B	健康管理・メンタルヘルスの推進に取り組んでいるが、更なる改善が必要である。休暇を取りやすい雰囲気はある。				
独自①（※2） 学校評価に「働き方改革」の項目を入れ、検証する	○	○	○		A	学校評価の評価項目に入れ、一定の評価を得ることができた。	A	学校評価の評価項目に入れ、一定の評価を得ることができた。				
独自②（※2）												

取組の重点項目３ 【校務の精選・効率化・明確化】

取り組みの詳細（※1）

	年度ごとの取組項目				年度ごとの達成状況							
					令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	R3	R4	R5	R6	評価	分析	評価	分析	評価	分析	評価	分析
①業務の役割分担の見直しと適正化	○	○	○		B	かなり改善が見られるが、まだ一部の教職員に業務がかたよっているところがある。	B	業務量の適切な分散は今後も課題である。				
②各学校の実情を踏まえた行事・会議等の見直しと、「アクションシート」の作成と検証	○	○	○		B	行事や会議の見直し、効率化は進んだがより一層の改善が必要である。	B	コロナ禍にあって時間短縮や簡素化によって可能な方法で行事や会議を行った。アクションシートを活用した。				
③ICT等を活用した業務改善の支援	○	○	○		A	TeamsやFoamsの活用等で業務改善が一歩前進できた。	A	TeamsやFoamsの活用等で連絡事項やアンケート調査を行い、業務改善が進んだ。				
④外部人材の確保・活用	－	－	－		－	病院併設であり、病弱児童生徒の指導であるため積極的な活用の検討が難しい	－	病院併設であり、病弱児童生徒の指導であるため積極的な活用の検討が難しい。				
⑤会計業務の管理に係る検討	－	－	○		－	徴収の困難さがあり、今後、必要性や課題を整理していきたい	－	徴収の困難さがあり、今後、必要性や課題を整理していきたい				
⑥若手教員のサポート	－	○	○		－	若手職員は2名で日常的にサポートしているが、働き方改革までには至らない。	A	若手職員の時間外在校等時間はかなり抑えられており、定時退庁が浸透してきている。				
⑦事務職員と教員の連携・協働の推進	－	○	○		－	小集団の教職員で日常的に連携しているが、働き方改革までには至らない	B	連携、役割分担はできており、働きやすい環境となっている。				
独自①（※2）												
独自②（※2）												

取組の重点項目４ 【PTA・地域・関係諸団体との連携】

取り組みの詳細（※1）

	年度ごとの取組項目				年度ごとの達成状況							
					令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	R3	R4	R5	R6	評価	分析	評価	分析	評価	分析	評価	分析
① PTA・保護者・地域の理解を求める取組の実施	－	○	○		－	児童生徒の在籍変動が大きく、組織的なPTA活動はできていない	B	『あんしんメール』の導入により、時間外の連絡も簡単にできるようになった。				
独自①（※2）												
独自②（※2）												

取組の重点項目５ 【部活動運営の適正化・部活動指導の負担軽減】

取り組みの詳細（※1）

	年度ごとの取組項目				年度ごとの達成状況							
					令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	R3	R4	R5	R6	評価	分析	評価	分析	評価	分析	評価	分析
①部活動ガイドラインの遵守	－	－	－		－	部活動は実施していない	－	部活動は実施していない				
②部活動指導員等外部人材の活用	－	－	－		－	部活動は実施していない	－	部活動は実施していない				
③休日の部活動の段階的な地域移行（中学校）	－	－	－		－	部活動は実施していない	－	部活動は実施していない				
独自①（※2）												
独自②（※2）												